

# Honda Flight Training Center News

【Special】 JAL 内定を果たした JH24 期 藤沼豊修了生 特別 interview をお届けする。

飛行機部 2021 年 2 月 3 日号

JAL グループ合同採用に応募、晴れて JAL（日本航空株式会社）より内定をいただいた JH24 期藤沼豊修了生。内定直後の 1 月中旬、夢実現を果たした藤沼修了生に、大分 HFTC センター長板倉顧問、訓練アドバイザー神谷より interview をお願いした。そのエッセンスをお伝えします。（敬称略）

**板倉：**JAL より内定獲得、夢の実現おめでとう！訓練生の憧れの的！昨年 JAL に入社した石井修了生や他社に採用され活躍している先輩方とともに、後輩の道を拓く期待の星となりました。今日は、これまでの訓練振り返り、後輩訓練生へのメッセージなどよろしくお願いします。

**藤沼：**ありがとうございます。先日、JAL より「内定通知書」が郵送され、現実感がじわじわとわいてきました。最初の一步を振り返ると、本当に夢のようです。「後輩の道を拓く」と期待されるとプレッシャーですが、今日あるのも米国スカイクリエーション（以下 SKY 社）及び本田航空教官ほかスタッフ皆さま、そして同期・先輩後輩訓練生皆様に支えられてのことと、深く感謝するばかりです。これまで応援してくださった両親も、自分以上に喜んでます。

**神谷：**本当におめでとう！JAL 採用ご担当者も、「優秀な人財を採用させていただき深く感謝している。これからも是非石井さん、藤沼さんに続くチャレンジャーに期待しています」と連絡をいただきました。今後のスケジュールはどうなっているのでしょうか？

**藤沼：**心から嬉しいです。4 月入社となります。まだはっきりと確定しているわけではありませんが、1 年間は各部署での地上業務実習。その後 2 年間、ATP 取得のための FFS・実用機訓練を経て、FO 昇格となる予定です。ワクワクしますが、これから始まる地上研修・訓練においても、初心忘れず謙虚に研鑽、自分磨きしたいと思っています。

**板倉：**藤沼さんは、他社のエアライン採用試験も経験されています。JAL 採用試験において、特に他社と違うところはありましたか？

**藤沼：**振り返ると、JAL 採用試験は大変体系的に仕上がった採用の仕組みとの印象を持ちました。過去の蓄積が大きいからと思いますが、例えば面接では、採用担当者、面接官による判断（結果）にばらつきが生じないよう配慮がされていたと感じます。他社は、どちらかというと、審査者に自由度が与えられている印象を受けました。その意味では、オーソドックスなだけに基本に忠実な姿勢で臨むことができました。

**神谷：**藤沼さんは、10 年間の社会人経験を経て、人生リセットして訓練をスタートされました。年齢に対する不安などはなかったのでしょうか？

**藤沼：**ひと言でいえば、「チャレンジして本当によかった！」ということです。不安はもちろんありましたが、ゴールがとても明確だったので、自分を信じ、一つひとつの積み重ねを続けてきました。訓練に無駄はなく、目標としていた期間（国内事業用～計器課程 1 年間）で終えることができました。充実した日々だったと振り返ることができます。



**神谷：**米国から大分 HFTC へ。環境の違いなど、戸惑いはありませんでしたか？

**藤沼：**SKY 社の教官皆さんには、しっかり指導していただきました。戸惑いという意味では、確かに日本との飛行基準や野外飛行など方式の違いがありました。これは、仲間との学び合いや、自分なりに「何が自分に不

足しているのか」を分析した上での反復練習で、乗り越えることができました。具体的に言えば、チェックリストを機上で確実にできるよう地上で反復練習イメトレをするなど。希望を言えば、訓練終盤、帰国後JCAB事業用訓練をイメージ・想定できる時間付け兼ねた訓練ができていたなら、との思いはあります。SKY社にて日本に備えた訓練があり、大変ためになりました。更に一步踏み込み、事業用操縦課程を忠実に想定する内容だと更に良かったと個人的には考えています。

**神谷:**なるほど。日米連携については、今後も双方コミュニケーションを密にして、スムーズにJCAB訓練に移行できる仕組みを構築させることが必要なのですね。ところで、訓練ばかりだと煮詰まってしまうのではないかと思うのですが、Offはどのように過ごされたのでしょうか。

**藤沼:**はい、訓練に集中することはとても大事ですが、そのためにも気持ちの切り替えは大変重要だと感じていました。米国での訓練序盤はなかなかその余裕はありませんでした。が、終盤落ち着いてくると逆にリフレッシュし過ぎるきらいもあったので、同期お互いに励まし合いながら訓練とのバランスを取りました。大分では、寮・訓練所の立地がよかったので、海を眺めながら過ごしたり、泳いだり釣りをしたり。On/Offの切り替えに困ることはありませんでした。

**神谷:**学び合ったり励まし合ったり。同期や仲間とはどのような関係だったのでしょうか。

**藤沼:**一言でいえば、「心の支え」。勉強は一人でもできたのかもしれませんが、日々の訓練では、失敗して落ち込むことも多々あります。そうした時に、同期と話し、お互いの知識・理解・経験・教官指導などを共有することで、学びが深まるとともに気持ちの切り替えができました。その「心の支え」としての関係が今も続いています。彼らもまたエアライン内定を果たし、夢を実現していただろうと思っています。

**板倉:**同期、上下を超えた仲間の関係は、この訓練では欠かせない。一人の知恵を皆の知恵に。そのチームワークがあればこそパイロット就職という夢が果たせると思う。卒業生が一回り遅しくなって大分に集い、同窓会などできたらこれほど嬉しいことはないと思っています。是非里ごころ忘れず、後輩の応援にも来てください。

**神谷:**最後に、今まさに訓練に集中している、後輩皆さんへのメッセージをお願いします。

**藤沼:**板倉さんからお話があった同窓会、自分も是非その中に加わりたいと思います。後輩の皆さんには、その

時々、目の前のことを確実に果たすことで夢は実現できる、それを信じて訓練に励んでほしいと思っています。正直に言うと、訓練をスタートする前、JALグループ採用があるとは聞いていましたが、カタチだけでは？と聞いていました。訓練の過程で、先輩がJALに採用された、という話を聞きましたが、自分のような凡人がまさかJALの一員になれるなど想像できなくて。本当に夢のようです。しかし、今思うのは、諦めず自分を信じて努力を継続すれば、夢は叶う！ということです。年齢的にも（内定時33歳）不安はありました。しかし、社会人として経験してきたことも、採用時しっかり見ていただいたのだと思います。技倆はもちろん「基本に忠実に」修得できているか、FFS/SIMにて試されます。それよりもその人の「人となり」「人間性」を見ていた印象が強くあります。協調性やリーダーシップなど、機長として必要な資質が備わっているのか。そうしたものが自分に備わっているか、と言われると自信はありませんが、試験を受けて強くそのように感じました。ES作成、面接対策では、そうした面が「正しく」伝わるようにと、顧問お二人よりしっかり指導を受けました。ES作成・模擬面接「指導」は、自分をより深く理解するのに大変役立ちました。自分一人では気づくことができない弱点や、逆の強みとなることも含め、いろいろ気づかされました。皆さんも、就職対策では顧問の力を大いに借りることをお勧めします。自信をもって採用試験、面接に臨むことができます。是非、初心忘れず！積極的学びの姿勢を貫いて「夢をカタチに！」してってください。

**神谷:**冒頭、JAL採用ご担当者のお声をお伝えしましたが、育成する側の責任も重大！と心新たにしています。今日いただいたお話も、藤沼さんの後に続く後輩訓練生皆様に届け、それぞれに夢の実現に向かってほしいと願います。今日は色々なお話し、どうもありがとうございました。（文責：訓練アドバイザー 神谷 悟）



CPL 合格証授与